

内閣改造で支持率回復ならず、支持率調査の裏を読む

安倍政権の浮揚を狙った8月3日の内閣改造は、どうやら支持率回復のもくろみは失敗に終わったようだ。組閣過程でも、もはや「安倍一強」体制の綻（ほころ）びを見せ、苦肉の策の外相、総務相人事だけでは、V字型の支持率向上にはならなかった。

すでに、安倍改憲方針も日程的に怪しくなってきたという動きが出てきた半面、野党共闘の足並みが整わない内に「破れかぶれ解散」に打って出るという見方も出ており、予断を許さない。

ところで、内閣改造から4日目の7日までに、報道各社の世論調査結果が出そろった。内閣改造の翌日、最初に発表した毎日新聞の「内閣支持率」は35%と、前回7

	7月	8月	不支持率	調査日
毎日新聞	26%	35%	47%	3日午後～4日午後
共同通信	35%	44%	43%	同上
読売新聞	36%	42%	48%	同上
朝日新聞	33%	35%	45%	5日～6日

月の26%から9ポイントも急上昇した。不支持率は47%と9ポイント減少したが、不支持率が10ポイント以上も上回る状況は変わらなかった。7日発表した読売新聞では支持率は6ポイント上昇し42%だが、不支持率は48%と上回った。7日発表した朝日新聞は支持率35%と2ポイントの上昇で下落に歯止めはかかったが、不支持率はいぜん45%と高止まりしたままだった。

注目されたのは、5日発表した共同通信の調査。支持率は9ポイント上昇し44%になり43%の不支持率を上回った。読売はともかく毎日、朝日とも35%の支持率なのに40%台半ばまでの支持回復とテレビ各社の調査を併せても唯一「不支持率を上回った」データとなり、話題を呼んでいる。この結果を伝えた日の記事では「官邸や与党内に安堵の声」と報道している。

しかし、この「謎（なぞ）」は、たちまちネット社会では見破られた。通常は「安倍内閣を支持しますか」という簡潔な質問なのに、この時に限って「安倍晋三首相は内閣を改造しました。あなたは、この安倍内閣を支持しますか」という、丁寧というよりも余計な説明を付けた質問になっていた。「安倍内閣」に対する支持ではなく、「安倍改造内閣」に対する意見を聴いた形になっていたからだ。

これまでも、支持率が落ち目になると問題閣僚をはずし、無難な陣容をめざした内閣改造は幾分かの支持率向上をもたらすのは常であった。内閣改造を節目に調査したのは事実だが、質問内容を変えると“誘導質問”になってしまう。

小生は新聞社時代に10数年にわたって世論調査の責任者を担当してきたが、支持率調査でこのように質問を変えるのは禁じ手でもある。とくに、長期的な支持率の変化をみる場合には、質問を変えるのは致命的になる。

世論調査はここ20～30年の間にずいぶんと方法が変わった。調査対象とするサンプルを、有権者台帳に基づき統計的手法を使って抽出する方法から、RDD法というコンピューターによる無作為抽出方式が変わったのは、居住形態や通信条件の変化からやむを得ないとしても、ときには音声自動応答で質問する手抜き調査まで登場している。コストや経済的効率化から手抜き調査が横行するのは、世論をより正確に反映する本来の趣旨から逸脱していないか？ 加えて、継続的調査に必要な原則を曲げての質問が行われるとしたら、世論調査の自殺行為になりかねない。

有権者市民も、世論調査に対するリテラシーを身につけ、数値だけを鵜呑みにしないことが求められる。